

令和9年度 公立学校教員採用候補者選考試験問題

商 業

1 / 12 枚中

注意 答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。
問題文中の会社等はすべて架空のものとする。

第1問題 ビジネス計算・マーケティング分野について、次の問に答えよ。

問1 元金 ¥3,763,000 を年利率5%、半年1期の複利で7年間貸し付けると、複利利息はいくらか、答えよ（円未満四捨五入）。ただし、下の数表を用いること。

【複利終価表】

利率 期数	2%	2.5%	3%	3.5%	4%	4.5%	5%	5.5%
6	1.12616242	1.15969342	1.19405230	1.22925533	1.26531902	1.30226012	1.34009564	1.37884281
7	1.14868567	1.18868575	1.22987387	1.27227926	1.31593178	1.36086183	1.40710042	1.45467916
8	1.17165938	1.21840290	1.26677008	1.31680904	1.36856905	1.42210061	1.47745544	1.53468651
9	1.19509257	1.24886297	1.30477318	1.36289735	1.42331181	1.48609514	1.55132822	1.61909427
10	1.21899442	1.28008454	1.34391638	1.41059876	1.48024428	1.55296942	1.62889463	1.70814446
11	1.24337431	1.31208666	1.38423387	1.45996972	1.53945406	1.62285305	1.71033936	1.80209240
12	1.26824179	1.34488882	1.42576089	1.51106866	1.60103222	1.69588143	1.79585633	1.90120749
13	1.29360663	1.37851104	1.46853371	1.56395906	1.66507351	1.72219610	1.88564914	2.00577390
14	1.31947876	1.41297382	1.51258972	1.61869452	1.73167645	1.85194492	1.97993160	2.11609146
15	1.34586834	1.44829817	1.55796742	1.67534883	1.80094351	1.93528422	2.07892818	2.23247649

問2 11月20日満期、額面410,000円の手形を7月4日に割引率年7.9%で割り引くと、手取り金はいくらか、答えよ（平年、両端入れ、割引料の円未満切り捨て）。

問3 原価 ¥267,000 の商品を予定売価 ¥350,000 から値引きして販売したところ、原価の11%の利益を得た。値引率は何パーセントか、答えよ（パーセントの小数第1位未満四捨五入）。

問4 図1は新製品開発のプロセスを6段階に分けて表したものである。□ア～□エにあてはまる語句の組み合わせとして適切なものをA～Eから一つ選び、記号で答えよ。

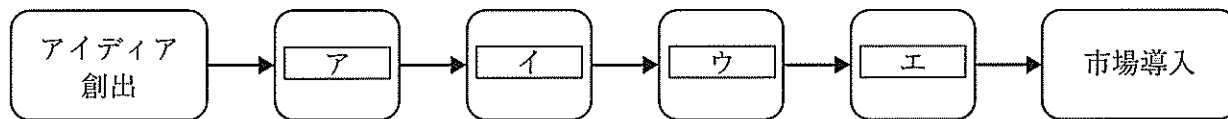


図1

- | | | | |
|---|-----------------|-----------------|-----------------|
| A | ア コンセプト開発 | イ アイディア・スクリーニング | ウ プロトタイプの製作 |
| | エ テスト・マーケティング | | |
| B | ア コンセプト開発 | イ テスト・マーケティング | ウ アイディア・スクリーニング |
| | エ プロトタイプの製作 | | |
| C | ア テスト・マーケティング | イ アイディア・スクリーニング | ウ コンセプト開発 |
| | エ プロトタイプの製作 | | |
| D | ア アイディア・スクリーニング | イ コンセプト開発 | ウ プロトタイプの製作 |
| | エ テスト・マーケティング | | |
| E | ア アイディア・スクリーニング | イ コンセプト開発 | ウ テスト・マーケティング |
| | エ プロトタイプの製作 | | |

問5 「SPA」について簡潔に説明せよ。

問6 次の表は、商品ミックスを考慮した価格政策についての説明である。ア～ウにあてはまる語の組み合わせとして適切なものを、後のA～Fから一つ選び、記号で答えよ。

名称	説明
ア	複数の商品を組み合わせ、個別に購入したときに比べて安くなるように設定される価格。
イ	ある製品カテゴリーに、複数の価格帯を用意し、設定される価格。
ウ	同時に使用する商品のどちらか一方の価格を安く、または無料にし、もう一方の商品の販売で利益が出るように設定される価格。

- A ア ライニング価格 イ キャプティブ価格 ウ バンドリング価格
 B ア ライニング価格 イ バンドリング価格 ウ キャプティブ価格
 C ア キャプティブ価格 イ バンドリング価格 ウ ライニング価格
 D ア キャプティブ価格 イ ライニング価格 ウ バンドリング価格
 E ア バンドリング価格 イ ライニング価格 ウ キャプティブ価格
 F ア バンドリング価格 イ キャプティブ価格 ウ ライニング価格

問7 次の文章を読み、後の(1)～(5)に答えよ。

地方都市の飲料メーカーA社は、長年ペットボトルの緑茶を主力商品としてきた。しかし、若者の嗜好が多様化し、大手ブランドの低価格攻勢も加わったことで、売上は減少傾向にあった。経営陣は打開策を探るため、複数のマーケティング分析を行った。

まず、①マーケティングに影響を与える社内外の要因を整理した。自社の特徴として「地元産茶葉を活かせる安心感」「地域でのブランド認知度」が挙げられる一方で、「広告宣伝力の不足」が課題とされた。さらに経営を取り巻く状況として、「健康志向の高まり」が追い風となる一方、「全国的な価格競争」が大きな課題として認識された。

続いて市場を分けて検討すると、若者層はカフェ飲料やエナジードリンクに流れる一方、中高年層は「糖分控えめ」「自然志向」の商品を求めていることが分かった。結果としてターゲットは中高年層に絞られ、「地域素材を活かした健康的な飲料」という立ち位置を示す方針が定められた。

これらに加えて、②PEST分析によって、今後の自社の事業展開に大きな影響を及ぼす可能性のある社会全体の環境について確認を行った。

ここまでの分析をふまえ、新商品の戦略としては、「糖分控えめの緑茶飲料」を、やや高めの価格に設定して品質の高さを強調するとともに、地域のスーパーや観光地の売店を中心に販売し、「地元産茶葉使用」「健康志向」というメッセージを広告やSNSで発信することとした。

また、経営陣は新商品の提供を「単なる飲料の販売」にとどめず、購入体験や地域とのつながりを含めて消費者に価値を届けることが重要だと考えた。例えば、観光客が地域の茶畑を訪れ、生産者の想いを知った上で商品を味わうといった体験は、単なるモノ以上の意味を持つ。こうした考え方は、③ものをサービスの一つとして捉え、価値共創を基盤に置く新しい発想につながっている。

こうした取り組みは、消費者のニーズを起点にしつつ、社会全体の動きに目を向ける姿勢を反映しており、④企業のマーケティングが時代とともに変化していることを示している。

(1) 下線部①の分析手法の名称を答えよ。また、その内容を簡潔に説明せよ。

(2) 下線部②に関して、PEST分析の「社会的要因」にあてはまるものとして適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

- A 観光需要の回復
- B お茶の抽出技術の進歩
- C 食品表示規制の強化
- D 中高年層の健康意識の上昇

(3) 下線部③のような発想を何というか、適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

- A サービス・ドミナント・ロジック
- B 統合型マーケティング・コミュニケーション
- C マーケティング・マイオピア
- D サービス・プロフィット・チェーン

(4) 下線部④の変化について示したものとして適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

- A 製品志向→生産志向→消費者志向→販売志向→社会志向
- B 生産志向→製品志向→販売志向→消費者志向→社会志向
- C 製品志向→販売志向→社会志向→生産志向→消費者志向
- D 生産志向→販売志向→製品志向→社会志向→消費者志向

第2問題 マネジメント分野について、次の問に答えよ。

問1 特許における「オープン戦略」について説明せよ。

問2 「事業部制組織」の長所と短所について説明せよ。

問3 AはCに土地を売り、代金の支払いと引渡しも済ませたが、Cは登記を行わなかった。その後、Aが死亡し、Aの子であるBがこの土地を相続して、それをDに売却し、Dは登記を行った。この場合、この土地の完全な所有者と認められる者をA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

第3問題 会計分野について、次の問に答えよ。

問1 次の文章は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「商業編」の一部を説明したものである。後の（1）、（2）に答えよ。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）の「第3章 主として専門学科において開設される各教科 第3節 商業 第11 簿記 3 内容の取扱い（1）イ」には、「基本的な会計用語については、に慣れ親しむことができるよう留意して指導すること。」と規定されている。この規定が設けられている理由は、に対応する知識を習得させるためである。

(1) にあてはまる語として適切なものをA～Eから一つ選び、記号で答えよ。

- A 英語表記
- B 勘定科目
- C 貸借規則
- D 配列法
- E 発生主義

(2) イ にあてはまる語句として適切なものを A ~ E から一つ選び、記号で答えよ。

- A 簿記処理の複雑化 B 経済のグローバル化の進展 C 勘定科目の多様化
D 新しい金融取引の発生 E 会計情報の簡略化の推進

問2 次の (1) ~ (5) の取引の仕訳について正しいものには○、誤っているものには×を記せ。また、誤っているものについては、正しい仕訳を答えよ。ただし、正しい仕訳の解答にあたっては、以下の勘定科目の中から最も適当なものを使用すること。なお、同じ勘定科目を2回以上使用してもよい。

【勘定科目】

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	手 形 貸 付 金
売買目的有価証券	仮 払 消 費 税	支 店	そ の 他 有 価 証 券
支 払 手 形	買 掛 金	手 形 借 入 金	所 得 税 預 り 金
未 払 家 賃	本 店	社 債	受 取 利 息
支 払 家 賃	保 険 料	租 税 公 課	支 払 利 息

(1) 11月30日、固定資産税の第2期分¥65,000を現金で納付した。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
租 税 公 課	65,000	現 金	65,000

(2) 以前、取引銀行宛に約束手形を振り出して借り入れた¥5,000,000について、支払期日の延期を申請し承諾を得たので、新しい約束手形を振り出して旧手形と交換した。なお支払期日の延期に伴う利息¥20,000は元本に含めた。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
支 払 手 形	5,000,000	支 払 手 形	5,020,000
支 払 利 息	20,000		

(3) 支店は、本店が負担した保険料¥50,000のうち40%が支店の負担であるとの連絡を受けた。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
保 険 料	20,000	支 店	20,000

(4) 期首につき前期から繰り越されていた家賃の未払分¥100,000の再振替仕訳を行った。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
未 払 家 賃	100,000	支 払 家 賃	100,000

(5) 短期投資目的で社債(額面総額¥800,000)を額面¥100につき¥98で買い入れ、代金のうち¥600,000は小切手を振り出し、残額は現金で支払った。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
社 債	800,000	当 座 預 金	600,000
		現 金	200,000

問3 当社の会計期間は20X1年4月1日から20X2年3月31日までである。貸借対照表及び損益計算書の「ア」～「カ」にあてはまる勘定科目または金額を答えよ。なお、決算整理事項と仕訳は以下のとおりであり、()は各自推定すること。

【決算整理前総勘定元帳残高】

現 金	1,429,000	当 座 預 金	2,160,000	受 取 手 形	920,000
売 掛 金	1,430,000	貸 倒 引 当 金	31,500	繰 越 商 品	138,000
仮 払 法 人 税 等	96,600	備 品	800,000	建 物	5,000,000
建物減価償却累計額	2,875,000	関係会社株式	1,326,000	その他有価証券	935,000
支 払 手 形	678,000	買 掛 金	1,267,000	未 払 金	50,300
長 期 借 入 金	800,000	資 本 金	5,000,000	資 本 準 備 金	400,000
利 益 準 備 金	300,000	別 途 積 立 金	80,000	繰越利益剰余金	1,735,000
売 上	11,923,200	仕 入	8,938,000	給 料	1,202,000
消 耗 品 費	230,100	保 険 料	350,000	通 信 費	185,300

【決算整理事項】

① 決算期末における棚卸商品は以下の通りである。

期末棚卸高		単価 ¥440	保有個数 570 個
借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
仕 入	138,000	繰 越 商 品	138,000
繰 越 商 品	()	仕 入	()

② 受取手形及び売掛金の期末残高の3%の貸倒引当金を差額補充法により見積もる。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
貸倒引当金繰入	39,000	貸 倒 引 当 金	39,000

③ 当社が保有する有価証券は以下の通りである。なお有価証券価額の変動は正常な範囲内であり、期末評価にあたり税効果会計は適用しない。

	帳簿単価	保有株数	期末単価	備考
A 社株式	¥500	1,870 株	¥560	長期投資予定
B 社株式	¥680	1,950 株	¥660	B 社の発行済み株式を 60% 保有

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
()	()	()	()

④ 備品及び建物について、以下の通り、定額法、間接法により減価償却を行う。

備品 耐用年数 10 年 残存価額 ¥ 0

備品は 20X1 年 7 月 1 日に購入し、直ちに使用を開始している。減価償却費は月割りで計算する。

建物 耐用年数 40 年 残存価額 ¥ 0

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
減 価 償 却 費	185,000	建物減価償却累計額	125,000
		備品減価償却累計額	60,000

⑤ 決算により確定した当期の法人税及び住民税は、271,900円である。

借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額
法人税及び住民税	271,900	仮払法人税等	96,600
		未払法人税等	175,300

貸借対照表		(単位:円)
20X2年3月31日		
資産の部		
I 流動資産		
1. 現金預金		3,589,000
2. 受取手形	920,000	
貸倒引当金	()	
3. 売掛金	1,430,000	
貸倒引当金	()	
4. 商 品		()
流動資産合計		()
II 固定資産		
(1) 有形固定資産		
1. 備品	800,000	
減価償却累計額	()	
2. 建物	5,000,000	
減価償却累計額	()	
有形固定資産合計		()
(2) 投資その他の資産		
1. 投資有価証券		()
2. ア		1,326,000
投資その他の資産合計		()
固定資産合計		()
資産合計		()
負債の部		
I 流動負債		
1. 支払手形		678,000
2. 買掛金		1,267,000
3. 未払金		50,300
4. ()		イ
流動負債合計		()
II 固定負債		
1. 長期借入金		800,000
負債合計		()
純資産の部		
I 株主資本		
(1) 資本金		
(2) 資本剰余金		()
1. 資本準備金		()
資本剰余金合計		()
(3) 利益剰余金		
1. 利益準備金		()
2. その他利益剰余金		()
① 別途積立金		()
② 繰越利益剰余金		ウ
利益剰余金合計		()
株主資本合計		()
II 評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		112,200
純資産合計		()
負債及び純資産合計		()

損益計算書		(単位:円)
20X1年4月1日～20X2年3月31日		
I 売上高		11,923,200
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	138,000	
2. 当期商品仕入高	8,938,000	
	9,076,000	
	合計	
3. 期末商品棚卸高	工	()
	売上総利益	()
III 販売費及び一般管理費		
1. 給料	1,202,000	
2. 貸倒引当金繰入	()	
3. 才	力	
4. 消耗品費	230,100	
5. 保険料	350,000	
6. 通信費	185,300	()
	営業利益	()

第4問題 ビジネス情報分野について、次の問に答えよ。

問1 次の(1)～(3)について説明した文として適切なものを、後のA～Jからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- (1) ファンチャート
- (2) ロールフォワード
- (3) DNS

- A 指定されたドメイン名を、通信に必要なIPアドレスに変換するしくみ
- B 商品の売上高などの推移について、基準となるデータを100%として、その後の数期分のデータ変動の割合を比率であらわすグラフ
- C 論理的障害が発生した場合、完了確認されていなかったトランザクション処理をすべて取り消して開始前の状態を復元し、更新前のトランザクションの状態にもどって、処理を再開すること
- D ソフトウェアを小規模な単位で、実装とテストを繰り返して、開発を進めていく手法
- E 電子メールを送信者から受信者のメールサーバへ転送するプロトコル
- F 高速アプリケーション開発のことで、ユーザーを含む少人数で、仕様設計、開発、テストを繰り返しながら進めていき、比較的、開発期間が短く高品質なソフトウェアを開発することができる手法
- G データベースを保存しているハードディスクなどに物理的障害が発生した場合、処理開始時のバックアップとトランザクションファイルを用いてハードディスクなどを故障直前の状態にもどすこと
- H 作業の進捗度を、予定と実績の二つの横棒グラフであらわし、作業のスケジュール管理を行うために作成される図
- I ファイルサーバを複数台用意して、それぞれ分散している共有フォルダをみかけ上一つのサーバの共有フォルダとして提供するシステム
- J ソフトウェアの企画、開発、運用、保守、さらには廃棄までの工程全体のこと

問2 ある企業が本社から支社へ、200MBのデータを送信する。その際に利用できるネットワーク回線は次のA、Bの2種類であるが、このときのデータ送信にかかる時間の比率(回線A:回線B)を答えよ。

- ・回線A: 通信速度 80Mbps、伝送効率 80%
- ・回線B: 通信速度 125Mbps、伝送効率 64%

問3 図2のアローダイヤグラムで、AからGにいたる全体の作業日数に影響を与えないことを条件に、EからFの作業の遅れは最大何日まで許容できるか、答えよ。

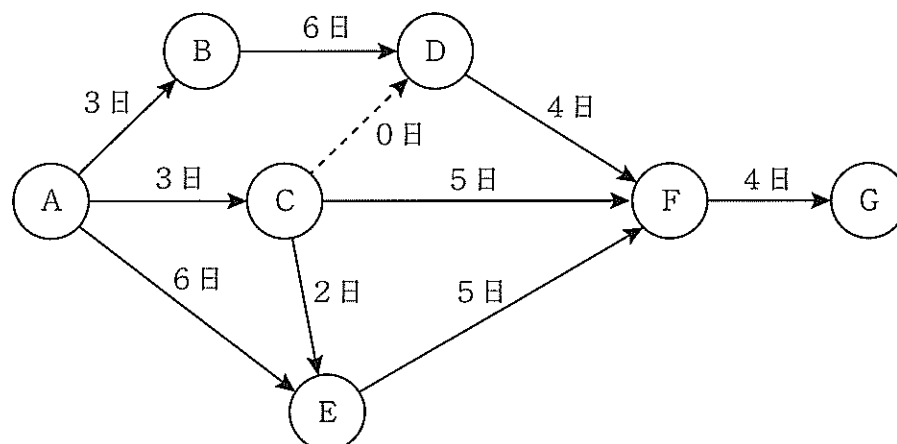


図2

問4 ある高等学校では、生徒が所属しているクラブ活動を次のようなりレシヨナル型データベース（クラブ表、生徒名簿、学科表）で管理している。後の（1）～（3）に答えよ。なお、各生徒は必ずいずれかのクラブに所属しているものとする。

クラブ表

クラブコード	クラブ名
C01	野球部
C02	サッカー部
C03	テニス部
C04	ダンス部
C05	バドミントン部
C06	陸上部
C07	科学部
C08	文芸部
C09	パソコン部
C10	演劇部
C11	美術部

生徒名簿

生徒コード	氏名	学科コード	クラブコード
1001	秋田 ○○	D01	C02
1002	新井 ○○	D01	C01
1003	佐藤 ○○	D02	C03
1004	飯田 ○○	D03	C05
}	}	}	}
1257	佐藤 ○○	D04	C07
1258	山川 ○○	D01	C01
1259	和田 ○○	D02	C09
1260	渡辺 ○○	D04	C11

学科表

学科コード	学科名
D01	普通科
D02	国際科
D03	情報科
D04	ビジネス科

(1) 生徒名簿から、生徒の氏名とクラブコードを表示する。クラブコードがC01またはC02の生徒だけに絞り、氏名の昇順で並べる。次のSQL文の 、 にあてはまるプログラムを答えよ。

```
SELECT 氏名, クラブコード
FROM 生徒名簿
WHERE クラブコード 
ORDER BY 氏名 
```

(2) 学科コードがD01で、生徒コードが1100以上かつ1200以下、さらにクラブコードがC01の生徒の学科コードをD99に更新する。次のSQL文の ～ にあてはまるプログラムを答えよ。

```
 生徒名簿
 学科コード = 'D99'
WHERE 学科コード = 'D01'
AND 
AND クラブコード = 'C01';
```

(3) 生徒の氏名が「佐藤」で始まる生徒が3人以上在籍しているクラブの「クラブ名」とそのクラブの「佐藤さんの人数」を、クラブ名の昇順で表示する。次のSQL文の ～ にあてはまるプログラムを答えよ。

```
SELECT クラブ表.クラブ名,  佐藤さんの人数
FROM クラブ表, 生徒名簿
WHERE クラブ表.クラブコード = 生徒名簿.クラブコード
AND 
GROUP BY クラブ表.クラブ名

ORDER BY クラブ表.クラブ名 
```

クラブ名	佐藤さんの人数
サッカー部	4
テニス部	4
パソコン部	3

問5 次のシートは、あるピザ屋の販売状況を示したものであり、下の処理条件にしたがって表計算ソフトウェアで作成されたものである。後の(1)～(3)に答えよ。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
1										
2	注文表					商品表				
3	注文コード	商品コード	サイズ	注文数	金額	商品コード	商品名	単価		
4	101	P01	M	2		P01	ミックスピザ	1000		
5	101	S01		3		P02	コーンピザ	900		
6	101	D02		1		P03	海鮮ピザ	1200		
7	102	P03	L	2		S01	ポテト	500		
8	102	S02		3		S02	ナゲット	700		
9	102	S03		4		S03	サラダ	400		
10	103	P02	M	1		D01	ジュース	200		
11	103	D03		2		D02	コーヒー	250		
12	104	P03	L	4		D03	ワイン	650		
13	105	P01	S	3						
14	105	D01		3						
15	106	P01	S	2						
16	106	P03	M	1						
17	106	S03		3						
18										
19	注文コード別売上表									
20	注文コード	合計金額	備考							
21	101									
22	102									
23	103									
24	104									
25	105									
26	106									

処理条件

- ・注文表では同一顧客からの注文には同一の注文コードを割り当てる。
- ・注文表の「金額」は商品表の単価を参照して計算する。なお、商品表の単価はSサイズのものであり、ピザはMサイズまたはLサイズも選択できるが、単価がそれぞれ1.2倍、1.4倍となる。
- ・注文コード別売上表の「合計金額」は注文表の注文コードごとの金額を合計して求める。
- ・注文コード別売上表の「備考」には、「3点以上の注文かつ合計金額が4500円以上」の注文に「※」を表示する。

(1) E4に設定する次の式の 、 にあてはまる関数等の組み合わせとして適切なものを、後のA～Dから一つ選び、記号で答えよ。ただし、この式をE17までコピーするものとする。

= (B4, \$G\$4:\$I\$12, 3, FALSE) * * D4

- A ア VLOOKUP イ IF(C4="L", 1.4, IF(C4="M", 1.2, 1))
- B ア VLOOKUP イ IFS(C4="L", 1.4, C4="M", 1.2, 1)
- C ア HLOOKUP イ IF(C4="L", 1.4, IF(C4="M", 1.2, 1))
- D ア HLOOKUP イ IFS(C4="L", 1.4, C4="M", 1.2, 1)

(2) B21 に設定する式を答えよ。ただし、この式を B26 までコピーするものとする。

(3) C21 に設定する次の式の ウ エ にあてはまる関数等の組み合わせとして適切なものを、後の A～D から一つ選び、記号で答えよ。ただし、この式を C26 までコピーするものとする。

=IF(AND(ウ, B21>=4500), エ)

- A ウ COUNTA(\$A\$4:\$A\$17, A21)>=3 エ "※", ""
- B ウ COUNT(\$A\$4:\$A\$17, A21)>=3 エ "", "※"
- C ウ COUNTIFS(\$A\$4:\$A\$17, A21)>=3 エ "※", ""
- D ウ DCOUNT(\$A\$4:\$A\$17, A21)>=3 エ "※", ""

問6 ある飲食店の売上データについて、次の入力データから実行結果を出力するプログラムを、下の処理条件に基づいて設計することとする。次のページの右側に示した流れ図の ア エ にあてはまる処理を、後の A～J からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

入力データ

メニューコード (CO)	売上数量 (SU)
×××	×××

実行結果

(メニューコード)	(メニュー名)	(売上数量)	(売上金額)
101	日替定食 A	35	42,000
102	日替定食 B	40	44,000
}	}	}	}
209	チャーハン	15	12,750
210	冷やし中華	8	7,200

処理条件

- メニューは 20 種類あり、あらかじめ配列 Sco にはメニューコードが、配列 Sta には単価が、配列 Sna にはメニュー名がメニューコードの昇順に記憶されている。なお、配列 Sco、Sta、Sna は添字で対応している。

配列

Sco

101	102	～	210
(0)	(1)	～	(19)

Sta

1200	1100	～	900
(0)	(1)	～	(19)

Sna

日替定食 A	日替定食 B	～	冷やし中華
(0)	(1)	～	(19)

2. 第1図のデータを読み、メニューコードをもとに配列 Sco を探索し、対応する単価をもとに売上金額を計算し、配列 Uri に集計する。Uri の0列目に売上数量、1列目に売上金額を集計する。なお、Uri の行方向の添字は配列 Sco、Sta、Sna の添字と対応している。売上金額は、次の式で求める。

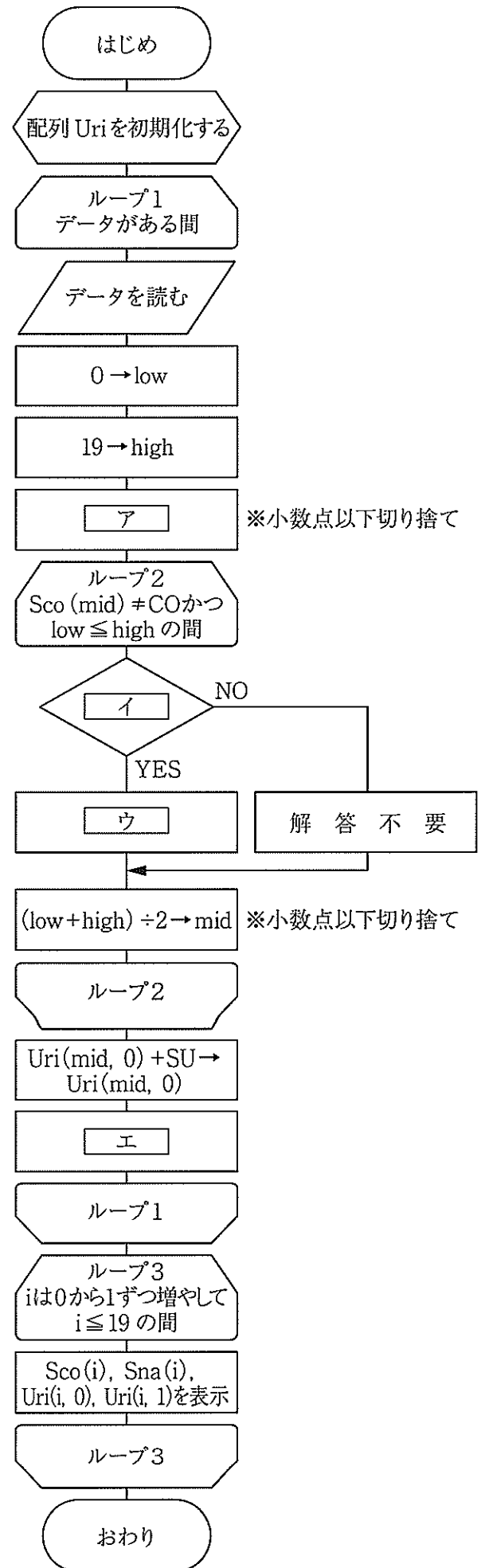
$$\text{売上金額} = \text{売上数量} \times \text{単価}$$

配列

Uri	(0)	(1)
(0)		
(1)		
{	}	}
(18)		
(19)		

3. 入力データが終了したら、メニューコード、メニュー名、売上数量、売上金額をメニューコードの昇順で表示する。なお、すべての商品について売上があったものとする。
4. データにエラーはないものとする。

- A Uri(mid, 1) + SU × Sta(mid) → Uri(mid, 1)
- B mid + 1 → low
- C high ÷ low → mid
- D Sco(mid) < CO
- E mid - 1 → high
- F mid + 1 → high
- G mid < CO
- H SU × Sta(mid) → Uri(mid, 1)
- I mid - 1 → low
- J (low + high) ÷ 2 → mid



第1問題 (22点)

問1	¥1,554,020 (2点)				
問2	¥397,577 (2点)				
問3	15.3% (2点)				
問4	D (2点)				
問5	SPAとは、アパレルの製造小売業のことである。企画、素材調達、生産、物流、販売までの一連の流れを自社で一貫して行うのが特徴である。 (3点)				
問6	E (2点)				
問7	(1)	名称	SWOT分析 (1点)		
		内容	マーケティングに影響を与える要因を、企業が持つ「強み」と「弱み」、企業が置かれている環境の「機会」と「脅威」の4つの観点に分けて分析する手法で、それらを掛け合わせることで様々な角度からマーケティング環境を捉えること。 (2点)		
	(2)	D (2点)	(3)	A (2点)	(4)

第2問題 (8点)

問1	他社に特許を使用する権利を与えて対価（ロイヤリティ）を得たり、無償で技術内容を公開したりすることである。この戦略により、参入企業を増やして市場全体の成長を促し、収益を得る機会を増やすなどのメリットが生まれる。 (3点)				
問2	長所	製品別や顧客別に部門が分けられ、事業部門における調整を事業部長が行うことで効率的に調整業務を行うことができ、環境の変化などに迅速に対応できる。 (2点)			
	短所	職能に対する専門化が進みにくいことや、同じ職能に関する情報が共有されにくいこと。 (2点)			
問3	D (1点)				

第3問題 (30点)

問1	(1)	A (2点)	(2)	B (2点)			
問2	(1)	正誤 ○	借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額	(2点)
	(2)	正誤 ×	借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額	(2点)
	(3)	正誤 ×	借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額	(2点)
	(4)	正誤 ○	借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額	(2点)
	(5)	正誤 ×	借方勘定科目	金額	貸方勘定科目	金額	(2点)
問3	ア	関係会社株式 (3点)	イ	175,300 (3点)			
	ウ	2,369,700 (3点)	エ	250,800 (3点)			
	オ	減価償却費 (2点)	カ	185,000 (2点)			

第4問題 (40点)

問1	(1)	B (2点)	(2)	G (2点)	(3)	A (2点)		
問2	5 : 4 (2点)							
問3	2 (2点) 日							
問4	(1)	ア	IN('C01', 'C02') (2点)		イ	ASC (2点)		
	(2)	ウ	UPDATE (2点)		エ	SET (2点)		
		オ	生徒コード BETWEEN 1100 AND 1200 (生徒コード >=1100 AND 生徒コード <=1200) (2点)					
	(3)	カ	COUNT (*) AS (2点)		キ	氏名LIKE '佐藤%' (2点)		
ク		HAVING COUNT (*) >= 3 (2点)						
問5	(1)	A (2点)	(2)	=SUMIFS(\$E\$4:\$E\$17, \$A\$4:\$A\$17, A21 (2点)		(3)	C (2点)	
問6	ア	J (2点)	イ	D (2点)	ウ	B (2点)	エ	A (2点)